

ヨハネの手紙第一2章1-2節 「私たちの執り成し手キリスト」

1A 長老からの言葉

2A 書き送る目的

1B 手紙の中の三つの目的

2B それぞれの関連性

3A 罪を犯さない目的

1B すべてが罪人

2B 勝利を目指す生き方

4A 罪を犯した時

1B 執り成してくださる方

1C 同伴して助ける方

2C 弁護者

2B 義なる方

1C 罪のない者の赦し

2C キリストにある義認

5A 宥めのささげ物

1B 御怒りの満たし

2B 罪から来る報酬

3B 血を流す贖罪

4B 義なる神の赦し

6A 世全体の罪

1B 不信者のための贖罪

2B 信者のための贖罪

本文

ヨハネの手紙第一 2 章を開いてください。私たちのヨハネ第一の手紙の学びは、前回 1 章を見ってきました。私たちの交わりは、御父と御子との交わりであると言った後に、神は光であるから、暗闇を歩きながら神と交わることはできないことを話しました。光としての知識が歩みに直結していなければ、そこに偽りがあるということです。そして、キリストの血が私たちの罪を全て清め、私たちが光の中を歩んでいる中で、神と交わりができることを話しています。

その中で、反発して、「私には罪はない」とか、「私は罪を犯したことがない」とか、自分を正当化するならば、それは自分を偽っているし、また、人は罪を犯したと言われる神を偽りだとすることであって、素直に、罪を言い表すならば、神は真実で正しい方だから、その罪を赦して、すべての不義

から私たちを清めてくださる、ということをお話しています。

そして 2 章ですが、今晚は 2 節だけ見ていきます。「**1 私の子どもたち。私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてくださる方、義なるイエス・キリストがおられます。2 この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。**」

1A 長老からの言葉

まず、「**私の子どもたち。**」という言葉から始めています。使徒ヨハネは、この手紙を他の福音書や黙示録と並んで、紀元後の 90 年代に書いたと言われています。彼自身がかなりの高齢です。彼は、イエス様の弟子であり、すぐ近くにいた人であり、教会の誕生からずっと指導者であり続けた人です。ですから、歳もそうですが、霊的成熟においても、「長老」そのものであります。ヨハネ第二の手紙、第三の手紙では、自分を「長老」と呼んでいます。

手紙を書いた 90 年代、すでに教会が生まれてから 60 年は経っています。教会は数が増え、広がりました。エルサレムが紀元 70 年にローマによって破壊されてから、彼はエペソを拠点にしているとされています。そして、ローマによる迫害が起こり、彼はパトモス島に流刑になりますが、時の皇帝ドミティアヌスが死んで、迫害は止み、エペソに戻ることができました。黙示録を読めば、主イエスが、七つの教会に対して警告の言葉を語られましたが、教会にはいろいろな霊的問題がありました。第一の手紙でヨハネが取り扱っているのは、グノーシス主義という異端です。それで、彼は、事実関係をはっきりさせるために、この手紙を書いています。そうした背景の中で、ヨハネが兄弟たちに対して「**私の子どもたち。**」と親愛の情を言い表しています。

2A 書き送る目的

次に、「**私がこれらのことを書き送るのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。**」と述べています。

1B 手紙の中の三つの目的

ヨハネは、福音書を書いた時もそうですが、自分の書いている目的を端的に、はっきりと書き記しています。なぜ、この手紙を書き送るのか？手紙全体の中で三つを述べています。すでに二つは、1 章の中にありました。「1:4 これらのことを書き送るのは、私たちの喜びが満ちあふれるためです。」そしてしめくくりの 5 章にあります。「5:13 神の御子を信じているあなたがたに、こえつらのことを書いたのは、永遠のいのちを持っていることを、あなたがたに分らせるためです。」そしてここ 2 章 1 節に、「**あなたがたが罪を犯さないようになるため**」という目的が書いてあります。

2B それぞれの関連性

それぞれに関連がありますね。喜びが満ち溢れるようになるのは、御父と御子との交わりがあるからです。その交わりを途切れさせるのが、罪です。ですから、罪を犯さないようにするために書いています。そして、そうした罪との戦いがあったとしても、御子を信じているあなたがたには、永遠のいのちがあることを知ってほしいと伝えています。

もし、罪を犯しながら生きていたら喜びがあるでしょうか？罪は楽しいものです。それを行っている最中は、楽しみを確かに得ていることでしょう。けれども、すぐに惨めな思いにその楽しみは変わります。すぐに虚しさがやってきます。「箴 20:17 だまし取ったパンはうまい。しかし、後でその口は砂利でいっぱいになる。」たった今は旨いかもしれませんが、後で砂利のような苦みを味わいます。そして、その痛みのほうは何日も、何か月も、いや何人も長引くことさえあります。ですから、喜びと、罪を犯さないことは密接に結びついていますね。

3A 罪を犯さない目的

1B すべてが罪人

それで、ヨハネは「**あなたがたが罪を犯さないようになるため**」と言っています。けれども、全く罪を犯さない状態に達することは可能なのでしょうか？キリストが再臨されて、私たちをこの罪あるからだから解放し、贖ってくださることによって達成されますが、それまでの間は全く罪を犯さないということはできません。

その現実を、ソロモンは神殿奉献式の時に祈りました。「I 列王 8:46a 罪に陥らない人は一人もいません。」神殿の中、また遠くにいる時も神殿に向かって祈る時、私たちの罪を赦してくださいというのが、ソロモンの祈りでした。伝道者の書でも、同じことを彼は述べています。「7:20 この地上に、正しい人は一人もない。善を行い、罪に陥ることのない人は。」そしてパウロが詩篇を引用して、「ロマ 3:12 善を行う者はいない。だれ一人いない。」と言い、有名な言葉を言いました。「3:23 すべての人は罪を犯して、神の栄誉を受けることができず」このようにして、罪を犯してしまうのは避けられません。

2B 勝利を目指す生き方

では、罪を犯してしまうから、罪を犯さないようにするという目標もなく、仕方がないとして生きるのか？というところではありません。それがここでヨハネが言っている、「**あなたがたが罪を犯さないようになるため**」であります。パウロは、ピリピ人への手紙で、「3:13-14 自分がすでに捕らえたなどと考えるはしません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるという、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。」という言葉を書いています。目標に達していないけれども、それに向かって一心に走っている姿です。

その競走で疲れ果ててしまわないように、ヘブル人への手紙の著者はこう励ましています。「ヘブル 12:4 あなたがたは、罪と戦って、まだ血を流すまで抵抗したことはありません。」イエス様は、罪人の反抗を忍ばれて、血を流されました。同じように、自分自身の罪を捨てるのに、あきらめないでほしい、ということです。パウロは、コリント人たちに第一の手紙で、こう言いました。「10:13b あなたがたを耐えられない試練にあわせることはなさいません。むしろ、耐えられるように、試練とともに脱出の道も備えていてくださいます。」パウロはテモテに第二の手紙で、「あなたは若いときの情欲を避け」と言いました(2:22)。勝利の道を歩むように、私たちは召されています。

4A 罪を犯した時

その中で、それでも罪を犯してしまった時、父なる神は励まし手を与えてくださっていることをヨハネは教えているのです。「しかし、もしだれかが罪を犯したなら、私たちには、御父の前でとりなしてください方、義なるイエス・キリストがおられます。」

1B 執り成してくださる方

1C 同伴して助ける方

この「とりなしてください方」とあります。これは、パレクレトス(παράκλητος)であり、そうです、イエス様が聖霊の約束として、「もうひとりの助け主」と言われた時と同じギリシア語なのです。その時に学びましたが、「援助のためにそばに呼ばれたもの」という意味です。

2C 弁護者

具体的には、ここでは、法廷弁護人と同じ意味合いで使われています。他の人のためのために嘆願するのを受け持っていることです。被告人のそばで弁護人が法廷で弁護する姿に似ています。(新改訳 2017 では「執りなしてください方」と訳していますが、第三版では、「弁護する方」と訳しています。)

どのように執りなしてくださいのか、弁護してくださるのかというと、分かり易くします。法廷で、自分は死刑宣告を受けています。告発しているのはサタンです。検察がサタンです。そして、私がどれだけの罪を犯したのかを明らかにします。それらは、弁護のしようがありません、すべてその通りなのです。それで、雄弁にサタンは私に死刑を求刑します。そこでイエス様が出てきます。主は、私の弁護人になってくださっていますが、なんとその弁論は、「すべて、告訴のとおりです。」一切合切を認めてしまったのです！これでは、弁護人ではないではないか？と思いますね。ところが、「彼に対する死刑は、すでに執行されています。この私、イエスが、彼の身代わりに死に、そして今、わたしが生きているのは、復活したからです。」そこで父なる神である裁判官が小槌を打ちます。「明石清正は、無罪。」口が開いたまま驚いているのは本人です。なんという展開か！弁護人は自分の罪を全部、認めちゃうし。でも、刑のほうが自分が犠牲になって受けたという…。それで無罪です。一切、罪を犯したことのないようにみなすのです。

2B 義なる方

1C 罪のない者の赦し

ここで、「**義なるイエス・キリスト**」とヨハネは言っています。主が、義なる方だからこそ、人に罪を赦す力を持っています。姦淫の現場で捕らえられた女のことを思い出してください。律法学者とパリサイ人たちに対して、「ヨハネ 8:7 あなたがたの中で罪のない者が、まずこの人に石を投げなさい。」と言われました。すると、一人一人去って行きました。イエス様だけが残されています。イエス様もまた、「8:11 わたしもあなたにさばきを下さない。行きなさい。これからは、決して罪を犯してはなりません。」と言われています。罪のない方が唯一、石を投げることができました。けれども、イエス様は敢えて、その権利と力を女の罪を赦すことに用いられたのです。真実で正しい方だからこそ、人の罪を赦すことができます。

2C キリストにある義認

復活され、神の右の座に着いておられるキリストは、今、執り成しをしてくださっています。「ヘブル 7:25 したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことができになります。」イザヤも預言しました。「53:12b 彼は多くの人の罪を負い、背いた者たちのために、とりなしをする。」そして、パウロがこう言いました。「ロマ 8:34 だれが、私たちが罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしをしてくださるのです。」

これゆえに、私たちは御父の前に出ても、神は、罪ある者としてではなく、義なる者とみなしてくださるのです。自分の義ではないのです。キリストの義なのです。自分がキリストの内にいるので、父なる神は、私をそのまま見るのではなく、キリストを介してみてください。キリストにある者であります。

5A 宥めのささげ物

² **この方こそ、私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための宥めのささげ物です。**

1B 御怒りの満たし

「**宥めのささげ物**」というのは、神が罪ある者に対してどうするか？という問題を解決する、ささげ物です。神は義なる方です。ですから、不義に対して罰せざるを得ません。そうでなければ、義なる方が正しさを保つことはできません。悪を放置し、是認することになってしまいます。したがって、正しい処罰をくわえるのですが、それを「神の御怒り」と呼びます。神が自己中心になって怒り散らすのではなく、それは人間の怒りですが、神の御怒りとは、罪に対して正しい裁きを執行することです。その御怒りが十分に満たされること、それが、「**宥めのささげ物**」と呼ばれます。パウロは、

「ロマ 3:25a 神はこの方を、信仰によって受けるべき、血による宥めのささげ物として公に示されました。」と述べています。

旧約聖書では、幕屋の至聖所において、契約の箱の上に「宥めの蓋」というのを置くところで、現われています(出エジプト 25:19)。全て金で造られていて、ケルビムが彫られています。そこは、神ご自身の御座を表していて、二つのケルビムが翼を重ねて礼拝している姿を現しています。そこには灯がありません。神ご自身が臨在し、光を放っているからです。そこから主が語られます。そして、宥めの日、あるいは贖罪日とも呼ばれますが、大祭司が年に一度、民の罪のための、雄やぎのいけにえの血を携えて、宥めの蓋の前で血を振りかけます。これによって、民全体の罪を神が清めてくださるのです。

2B 罪から来る報酬

罪には、死という報いがあります。「18:20 罪を犯したたましいが死ぬ」とエゼキエルが預言しました。ローマ 6 章 23 節には、「罪の報酬は死です。」とあります。

3B 血を流す贖罪

そこで、血を流すことなしには、罪が赦されないことが聖書では書かれています。血は、いのちを表すからです。「レビ 17:11 実に、肉のいのちは血の中にある。わたしは、祭壇の上であなたがたのたましいのために宥めを行うよう、これをあなたがたに与えた。いのちとして宥めを行うのは血である。」医学的にも、血は酸素を運び人を生かす働きがあると同時に、体の毒を取り除くために清める働きがあります。血はいのちであり、汚れを取り除くのです。「ヘブ 9:22 律法によれば、ほとんどすべてのものは血によってきよめられます。血を流すことがなければ、罪の赦しはありません。」ですから、イエス様は十字架で死なれ、血を流されることによって、神はご自分の御怒りを御子にあって満たされ、私たちに対する怒りは残されていない、ということになります。

4B 義なる神の赦し

これで、どうやって正しい神が、罪ある者を赦すことができるのか？その正しい根拠が出来たのです。罪に対する正しい裁きは執行されました。しかし、それはご自分の御子に対して行われました。ゆえに、御子に信頼する者の罪を赦すことができるようになったのです。

6A 世全体の罪

1B 不信者のための贖罪

そしてヨハネが、「私たちの罪のための、いや、私たちの罪だけでなく、世全体の罪のための」と言っていることが興味深いです。福音書においても、「3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。」とあります。しかし、世は神に反抗する制度であり、世の神は悪魔であることが、コリント第二に書いてあります。ではなぜ、愛するのか？それは、世そのものを愛して

いるのではなく、世にいる者たち、サタンの虜になっている者たちを憐れんで愛しておられて、反抗している者たちのために、ご自分の血をキリストが流されたということです。「ロマ 5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。」

それは、世そのものを愛し、罪を愛していることではありません。ヨハネは 2 章 15 節で、はっきりと、「2:15 あなたは世も世にあるものも、愛してはいけません。もしだれかが世を愛しているなら、その人のうちに御父の愛はありません。」と言っています。神に反抗することに同調したり、妥協したりするのではなく、その反抗している人々をこよなく愛する、ということです。その罪は忌むべきものですが、罪の中で滅んでいく人々を救いたいと願われ、主はこの世に来られ十字架に付けられたのです。

2B 信者のための贖罪

そして、「**私たちの罪のための**」とあるとおり、信じている者たちにとって、事実、罪の赦しと清めを受けているささげ物であるということです。不信者と信者の違いは、その贈り物を受け取っているか、そうでないかであります。神はすでに不信者のためにも、宥めのささげ物を備えておられるのです。「お前がイエスを信じなければ、地獄行きだぞ！」と脅しているわけではありません。そうではなく、すでにイエス・キリストは血を流され、まだ信じていない人たちのためにも神は罪の赦しを与えようと待っておられるのです。けれども、神は自由意志を尊重されます、受けとらないまでは、赦しと清めを自分のものとすることができないのです。

今日は、私たちの罪の赦しの土台を見ました。ここをしっかりと受け止めなさい、私の子どもたちよ、というのが長老であるヨハネの教えです。他に、いろいろな狡猾な惑わしで、私たちの罪は赦されないと責め立てるか、正反対に、開き直らせて罪を犯しても大丈夫だよとそそのかすか、サタンは、手を変え品を変え、キリストの血による罪の清めから私たちを引き離そうとします。しかし、大事なものは神の愛にそのまま留まっていることです。